

事業名称	クリーンアップ・コミュニティ～“好き”をみつけよう
団体名・代表者	ひめじ西里山サポート倶楽部・代表 井垣 守人
協働の相手方	ひめじ創生戦略室

目的	姫路の西エリアには、姫路市が誇る農産物特産品がありますが、高齢化や人口減少によって消滅危機が危惧されています。そこで、これらの課題を抱える生産者や地域住民との交流をキッカケに、地域の実情と魅力を再発見するとともに、その資源活用を図り、新たな“好き”なモノと人と出会い、大切な仲間となって地域を支え合う風土づくりを目指すことを目的とする。
内容	・太市の竹資源を活用した竹あかりの製作展示、姫路ブランドロゴを活用したWSの開催 ・安富のゆずと大規模農園での収穫体験を通じ、ボランティア活動のキッカケづくり ・交流会を通じた多世代での触れ合い（ゴミ拾い、防災訓練、アートWS） ・太市の竹林フィールドを活用した竹林整備体験（伐採、竹飯ごう体験、竹クラフト体験）
事業経過	・竹資源活用WSの開催：7月ミオロッソ書写、11月書写ひまわりホーム ・多世代交流会の開催：8月竹あかり、9月消防士、10月防災、12月アート、3月モルック ・収穫体験：11月安富ゆず、1月網干大根 ・竹林整備体験：1月太市竹林
事業の効果	ブランドロゴの認知は、WSや交流会を通じて、竹にレーザーで印刷するなど愛着が持てるように工夫し、また、太市の竹を活用したキーホルダーや名札、竹あかりなどで普段使いができることで、太市の魅力の発信と新たな魅力に気づくことができました。また、書写でも活動拠点としたことで、障害者やその家族とも出会い、新たな好きな居場所づくりに貢献できたと思います。 そして、太市での取り組みが石倉住民に対して理解を得るキッカケとなり、次年度に森林イベントでコラボすることが決まったことは、閉鎖的な風土を変えるはじめての一步だと感じています。
今後の展望	太市の竹林のフィールドを活用することで、人と地域をつなぐことができると考えています。また、今回の事業では、障害者や高齢者を巻き込んだ交流会を行い、多世代での交流の在り方を考え実証することができました。一人ひとりの孤独孤立防止対策として、食事や体験、学び、遊び、スポーツなど地域資源を活用した多世代交流拠点を作っていきます。

【実施団体の事業総括・感想等】

ブランドロゴ・メッセージについては、まだ認知不足は否めません。ただ、どの人もロゴの意味やデザインについて、興味と愛着を持たれていたことは、いろんな活用方法があると感じています。今回の事業は、多くの方々との支援と運もあり達成できたと感じています。このような期待を与えてくださり感謝申し上げます。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

今回のイベントを通じて、地域の魅力を再認識するとともに、地域住民の皆さんとの交流が、今後の新たな取り組みにつながったことは大変素晴らしいことだと感じています。今後も貴団体が地域の魅力を発信するとともに、人と人をつなぐ存在となることを期待しています。

また、ブランドメッセージとロゴの周知についても、さまざまな工夫を重ねていただきありがとうございました。認知度向上に向け今後ともご協力いただければ幸いです。